

# 「自動捕鳥機」伊から導入 アジア初



前後左右に動くベルトコンベヤーが中央へ鳥を集め、後方のコンテナへ積み込んでいく（江夏商事グループ提供）

## 江夏商事、構想8年



江夏商事グループが導入した自動捕鳥機（同グループ提供）

鶏肉の生産、処理・加工、販売を手がける江夏商事グループ（宮崎市、岩崎和也社長）がイタリア製の大型自動捕鳥機を導入、運用を開始した。担い手不足が深刻化する中、事業継続に不可欠な投資として実現。全国初となる画期的な自動捕鳥システムが構想から8年を経て動き出した。

## 担い手不足に対応

・プロ」。鶏舎の狭い日本用に改良した小型版で、ベルトコンベヤーの全長は約6㍎。前後左右に動く床面が鶏舎内の鶏を中央に寄せ、自動で捕鳥コンテナへ送り込む。荷積み・荷下ろしに加え、生鳥トラックへの積み込みも専用フォークリフトで一元化でき、作業員の負担は大幅に軽減される。

同グループによると、欧州では広く普及している自動捕鳥機だが、アジアでの導入は初めて。日本のブロイラーは欧米より1・5倍ほど大きく鶏舎内に敷き詰めた敷料も分厚いため、問題なく出荷できるか確認する作業が必要だという。現在、鹿児島県薩摩川内市の直営農場で試験運用を1月26日に開始しており、約1年の検証を経て他農場へ拡大したい考え。

2016年のトップ就任直後から自動捕鳥機の導入を目指してきた岩崎社長は「当時は日本に特約店がなく、思ったよりはるかに時間がかかったが、ようやくここまでこられた」と安堵の表情。次は処理場の整備を進めていく方針だ。

（樋口由香）